

2022年度の維持管理活動の報告

【目 次】

1. 一般参加維持管理イベント（10月1日(土)）の報告・・・・・・・・・・ P2
2. 維持管理作業（10月20日(木)）の報告・・・・・・・・・・ P3
3. 維持管理作業（11月30日(水)）の報告・・・・・・・・・・ P4
4. 巡視（1月18日(水)）の報告・・・・・・・・・・ P5

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

1. 一般参加維持管理イベント（10月1日(土)）の報告

- 対象：(1)中池保全エリア・河原草地
- 目的と内容：(1)・河原草地のアレチヌスビトハギ等の外来植物の除草を実施し、カワラナデシコ移植予定箇所を耕耘しました。
 - ・参加者に自然再生地への関心を持ってもらうことを目的として、チガヤ草地にて長畑委員指導の下、昆虫採集及び観察会を行いました。ハラビロカマキリ、トンサマバッタ、クルマバッタモドキ、アキアカネ、モンキチョウなどを観察できました。
 - ※予定していたサクラソウ群落再生地の維持管理のための外来植物の駆除並びに広がった竹の伐採は中止としました。
- 参加者：堂本委員長、荒木委員、長畑委員、小川委員、川島委員、一般ボランティア（8名）、運営事務局（5名）

(1)中池保全エリア・通路

作業前後

河原草地



作業状況

河原草地



作業範囲



河原草地



チガヤ草地



【考察と今後の方向性】

- (1)・一般ボランティアの皆さんは、意欲的に維持管理を行ない、予定していたカワラナデシコの移植予定地の耕耘は無事終わりました。
- ・河原草地では、アレチヌスビトハギの繁茂が著しく、作業後に付着した種子を取る作業に時間を要しました。現地で協議した結果、アレチヌスビトハギの分布拡大を防止するため、そのあと予定していたサクラソウ群落再生地での作業は中止としました。次回イベント実施時は、外来植物の種子散布防止に配慮した作業の順番とします。また、事前に、種子が付着しにくい服装の周知や、付着した種子の効率的な取り方の情報収集を行います。

2. 維持管理作業（10月20日(木)）の報告

- 対象：(1)上池呑口・モトクロス場跡地整備地 (2)中池保全エリア・オギ群落及び河原草地
- 目的と内容：(1)・上池モトクロス場跡地整備地Aに繁茂していたハリエンジュの伐採を実施しました。
(2)・オギ群落のアレチウリ等の外来植物やつる性植物の除草を実施しました。
・つばさ北小児童が移植したカワラナデシコの生育促進のため、アレチヌスビトハギ等の外来植物などの除草を行い、またカワラナデシコ移植箇所に目印として囲い設置を行いました。
- 参加者：堂本委員長、川島委員、宮川委員、運営事務局（9名）

(1)上池呑口・モトクロス場跡地整備地

作業前後

モトクロス場跡地整備地A（通路入口）



モトクロス場跡地整備地A



作業範囲



作業状況

モトクロス場跡地整備地A（通路入口）



作業風景



作業風景

モトクロス場跡地整備地A



作業風景

(2)中池保全エリア

作業前後

オギ群落



作業前

作業後

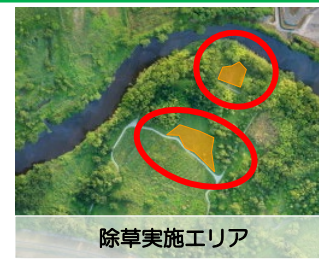
河原草地



作業前

作業後

作業範囲



除草実施エリア

作業状況

オギ群落



作業風景

河原草地



作業風景



カワラナデシコ移植箇所の目印杭

【考察と今後の方向性】

- (1)・今回は、ヤブの立ち入りに時間を割かれ、作業を完了できませんでした。毎年作業すれば萌芽したハリエンジュの幹は、人力（ノコギリ）で切断できます。
- (2)・オギ群落では、つる性植物の繁茂が著しく、今回の作業だけでは対象エリアすべての除草は完了できませんでした。また、これらつる性植物の影響によりオギが被圧されている様子が確認されました。今後の除草のタイミングや人海戦術のあり方について検討していきます。

3. 維持管理作業（11月30日(水)）の報告

- 対象：(1)上池呑口・モトクロス場跡地整備地 (2)中池保全エリア・オギ群落、サクラソウ群落再生地及び河原草地
- 目的と内容：(1)・10/20の作業でやり残したハリエンジュの伐採を実施しました。
 (2)・オギ群落再生に向けた、セブン財団によるオギ移植のための外来植物等の除草（オギ群落）
 ・春先に芽生える荒川の草花のためのヨシの除草（サクラソウ群落再生地）
 ・セブン財団によるカワラナデシコ移植のための耕耘（河原草地）
- 参加者：堂本委員長、宮川委員、運営事務局（4名）
- ※年間スケジュールで12/7に実施予定であった維持管理を変更して実施しました。

(1) 上池呑口・モトクロス場跡地整備地

作業前後

ハリエンジュ



萌芽再生した箇所



2020年、2021年に伐採した箇所



(2) 中池保全エリア

作業前後

オギ群落



サクラソウ群落再生地



作業範囲



河原草地



作業状況

オギ群落



サクラソウ群落再生地



河原草地



【考察と今後の方向性】

- (1)・ヤブの中に立ち入りやすい11月の作業が良く、10月20日の作業は5人で作業をわずかに残したことから、立ち入りやすい11月に5人を配置すると良いと考えられます。
- (2)・全体を通して、予定していた作業を完了することができました。ただし、オギ群落において、夏季に除草し積み上げた枯草の山が作業時の移動の妨げになり、作業効率を下げる結果となりました。今後、除草した草木の置き場所について作業実施前に慎重に検討していきます。

4. 巡視（1月18日(水)）の報告 【①実施概要と上池の結果】

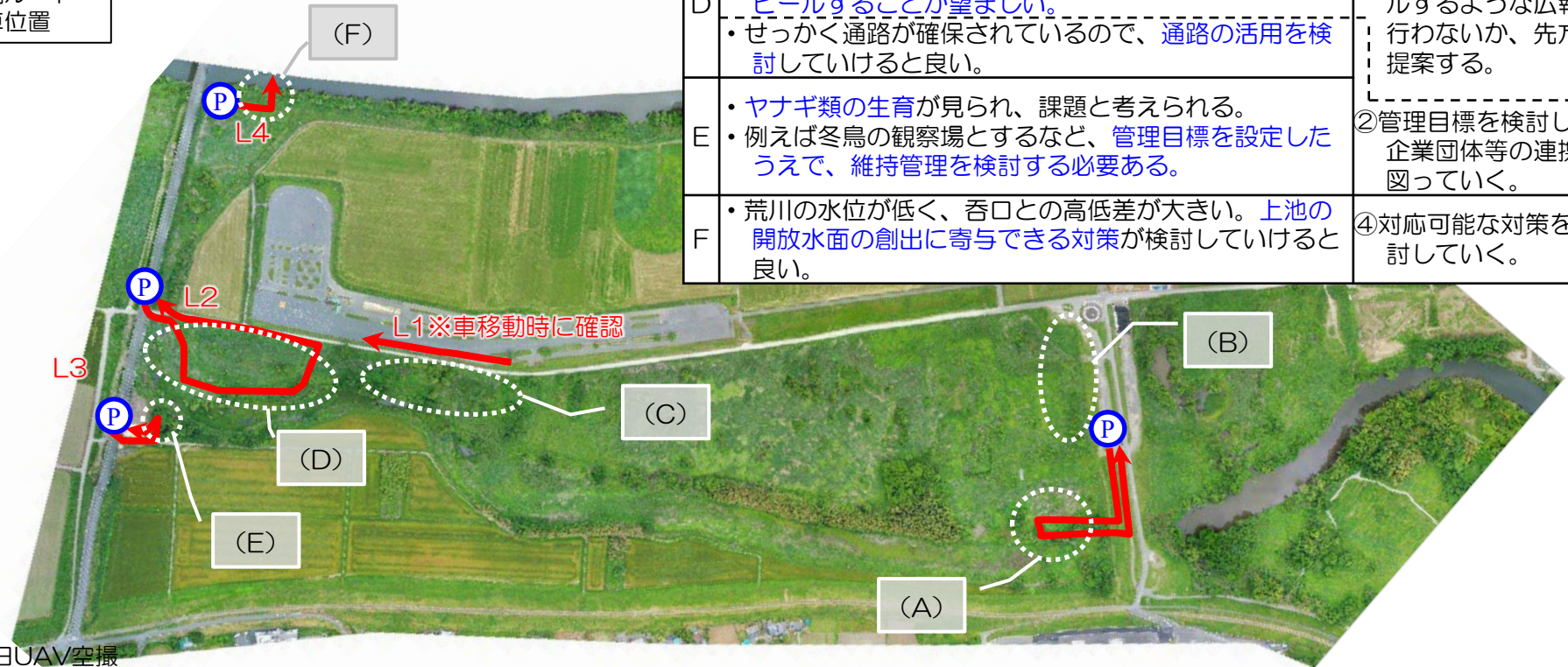
【巡視実施概要】

実施日	2023年1月18日（水） 9:00～11:40、13:00～14:30
場所	太郎右衛門自然再生地（上池・中池・下池）
出席者	協議会：堂本委員長、川島副委員長、宮川委員、 桶川市環境対策推進課 武藤課長 運営事務局：5名
資料	巡視スケジュールとルート概要 2023年の維持管理活動について（案）

【巡視結果（上池）】

箇所	巡視結果	今後の対応方針（案）
A	- 過去にシンジュが多く繁茂しており、維持管理を実施した箇所である。現在は若干であるが新たなシンジュの生育が見られる。 - 当該箇所を継続的に維持管理するためには、管理目的を設定したうえで、企業団体等との連携を図っていくことも良い。	①必要な作業として維持管理計画を見直していく。 ②管理目標を検討し、企業団体等の連携を図っていく。
B	セイタカアワダチソウが生育しており、維持管理が必要である。	①必要な作業として維持管理計画を見直していく。
C	2022年10月にハリエンジュを伐採した箇所である。現在、生育木は見られないが今後も注視が必要である。	①必要な作業として維持管理計画を見直していく。
D	- 本田航空による除草の成果として、通路が確保されている。協議会としても、本田航空の協力を対外的にアピールすることが望ましい。 - せっかく通路が確保されているので、通路の活用を検討していけると良い。	③本田航空の建物（玄関）で連携をアピールするような広報を行わないか、先方に提案する。
E	ヤナギ類の生育が見られ、課題と考えられる。 - 例えば冬鳥の観察場とするなど、管理目標を設定したうえで、維持管理を検討する必要がある。	②管理目標を検討し、企業団体等の連携を図っていく。
F	荒川の水位が低く、呑口との高低差が大きい。上池の開放水面の創出に寄与できる対策が検討していけると良い。	④対応可能な対策を検討していく。

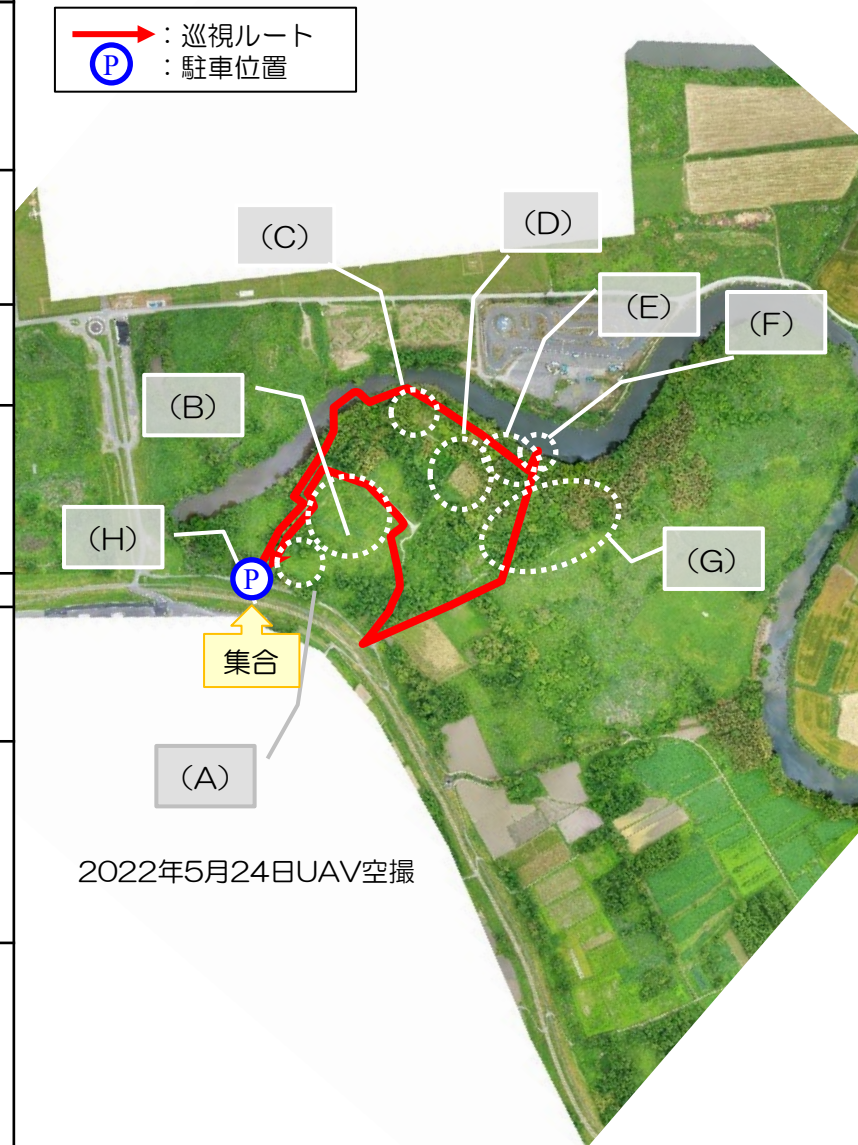
 : 巡視ルート
 : 駐車位置



4. 巡視（1月18日(水)）の報告【②中池の結果】

【巡視結果（中池）】

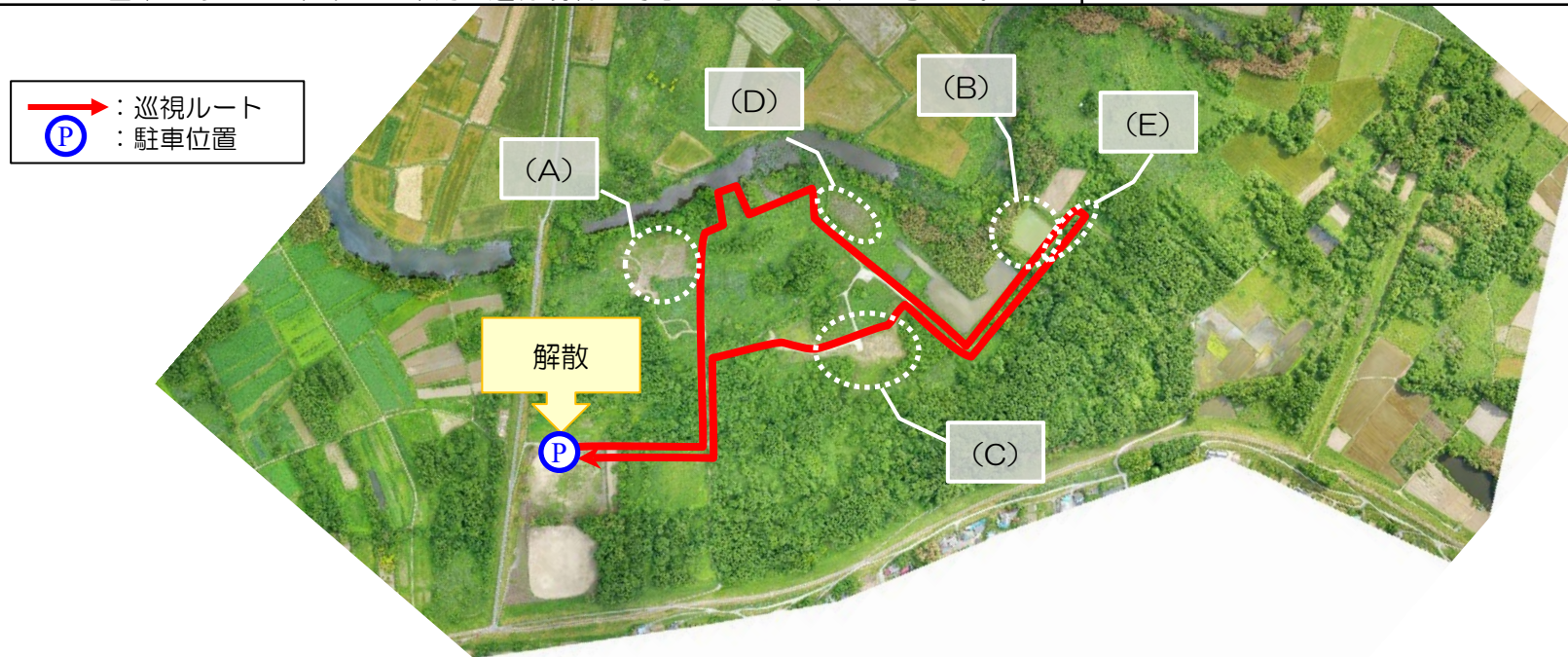
箇所	巡視結果	今後の対応方針（案）
A	2022年12月の大和ハウス工業の企業活動によって、きれいに整っている。 - 企業のモチベーション向上や来訪者の楽しみを創出することを狙ってノウルシなどの移植を行うことも、管理目標を設定のうえで進めていけると良い。	②管理目標を検討し、企業団体等の連携を図っていく。
B	本田航空による除草の成果が確認できる。成果を本田航空がアピールできるようなものを作成できると良い。例えば、本田航空の玄関に設置するようなパネルの作成。	③本田航空の建物（玄関）で連携をアピールするような広報を行わないか、先方に提案する。
C	つばさ北小学校がカワラナデシコを移植した範囲が分かりにくいいため、当該範囲を支柱とロープで囲う必要がある。	⑤維持管理作業時に支柱とロープで囲いを設ける。
D	非表示	⑥3月の維持管理作業で対応予定
E	竹林内でタヌキのため糞やフクロウの羽根が確認できた。	⑦情報の蓄積を図る。
F	- 釣り座の設置、漁労船の係留を確認した。 - 釣り人のマナー向上について、関係者に伝えていく必要がある。	⑧マナー向上の取り組みとして、関係者（漁協等）との協議、注意看板の設置を検討していく。
G	- 散策路は非常に歩きづらい状況である。一方で、散策路として、しっかり維持管理するとマナーに反する活動が増えることも懸念される。維持管理にあたっては、啓発（看板設置）等をセットで検討する必要がある。 - 竹に覆われている箇所があるので、維持管理の労力が大きい。	⑨維持管理計画、維持管理体制を見直していく。
H	中池の入り口に維持管理への協力団体名を記した看板の設置を検討することとする。	⑩大和ハウス工業等の協力団体名を記した看板を中池の入り口に設置する。随時、差し替え可能な看板とする。
全体	- 企業等による維持管理の効果が現れている。 - 関係協働主体と活動内容（ビフォー・アフターのわかりやすい写真の掲載など）を示す看板の設置を検討する必要がある。活動主体の変更等に対応しやすいように、差し替え可能な看板が良い。	



4. 巡視（1月18日(水)）の報告 【③下池の結果】

【巡視結果（下池）】

箇所	巡視結果	今後の対応方針（案）
A	・UAV飛行場と通路設置、監視カメラを確認した。	⑧マナー向上の取り組みとして、関係者との協議、注意看板の設置を検討していく。
B	・昨年マーキングしたハンノキ幼木の生育を確認した。 ・確認されているハンノキ幼木の移植は実施していく必要があるが、管理のしやすさ、親木からの播種による広がり条件確認の観点などから、移植場所、移植方法については検討が必要である。	⑪ハンノキ幼木の移植について検討していく。
C	・ゴルフ利用者が4組程度確認された。 ・ゴルフ利用場所の土地所有者の確認のうえで、自然再生地としての望ましい姿に向けて抑制が必要と考えられる。	⑧マナー向上の取り組みとして、注意看板の設置を検討していく。
D	・移植したハンノキの生育は確認できるが、幼木が発生していない。幼木の発生がヨシ等の生育で抑えられているかもしれないので、ヨシ刈りを実施しても良いのではないかな。	⑫ハンノキの幼木が発芽するか親木周辺の除草を試行する。
E	・車両は通行止めとしていたが、通行止めのロープが撤去され、車両が自由に通行できる状況となっている。 ・オオタカの営巣もあるので、改めて車両の通行規制の対応をした方が良いと考える。	⑬車止めの再設置や注意事項の掲示を行う。



4. 巡視（1月18日(水)）の報告 【④今後の対応（まとめ）】

項目	現状・課題	今後の対応方針
維持 管理 作業	・上池でシンジュ、セイタカアワダチソウが確認されている。 ・上池のハリエンジュ伐採箇所は、引き続き注視が必要である。	①必要な作業として維持管理計画を見直していく。
	・つばさ北小学校が中池でカワラナデシコを移植した範囲が分かりにくいいため、当該範囲を支柱とロープで囲う必要がある。	⑤維持管理作業時に支柱とロープで囲いを設ける。
	非表示	⑥3月の維持管理作業で対応予定
	・中池の散策路が、竹等の繁茂で非常に歩きづらい状況にある。	⑨維持管理計画、維持管理体制を見直していく。
	・ハンノキの若齢林を拡大する必要がある。	⑪ハンノキの幼木が発芽するか親木周辺の除草を試行する。 ⑫ハンノキ幼木の移植について検討していく。
管理	・下池整備地で車止めが機能していない（現状の車止め設置箇所2箇所とも）。	⑬車止めの再設置や注意事項の掲示を行う。
	・上池の旧流路整備地、モトクロス場跡地A、D及び中池（大和ハウス工業の作業範囲）について、各課題への対応が必要である。 ➢旧流路整備地：ヤナギ類の生育が見られ、課題である。 ➢モトクロス場跡地A：本田航空により通路が確保されているが、利活用が無く課題である。 ➢モトクロス場跡地D：シンジュ伐採の持続的な管理が課題である。 ➢大和ハウス工業の作業範囲：今後の展開を検討する必要がある。	②管理目標を検討し、企業団体等の連携を図っていく。
	・上池の開放水面の創出に寄与できる対策が検討していけると良い。	④対応可能な対策を検討していく。
	・竹林内でタヌキのため糞とフクロウの羽根が確認できた。	⑦情報の蓄積を図る。
	・中池の釣り座、下池のゴルフ利用、UAV飛行場に対して、自然再生協議会としての対応を検討する必要がある。	⑧マナー向上の取り組みとして、関係者（漁協等）との協議、注意看板の設置を検討していく。
連携	・本田航空や大和ハウス工業の連携を対外的にアピールし、協議会と企業がwin-winの活動が継続できると良い。	③本田航空の建物（玄関）で連携をアピールするような広報を行わないか、先方に提案する。 ⑩大和ハウス工業等の協力団体名を記した看板を中池の入り口に設置する。随時、差し替え可能な看板とする。